

外国人ドライバー(バス・タクシー)受入モデル確立プロジェクト イメージ

地域公共交通の現状・課題

- ドライバー不足により、安定的な地域公共交通の維持・確保が困難になるおそれがある
- 慢性的なドライバー不足に対応するためには、これまで以上に、多様な人材の活用について検討が必要



外国人ドライバーの現状・課題

- 地方ではまだ事例が少なく、事業者ノウハウなどが蓄積されていない
- 日本人のドライバーと異なる就労・生活面の課題への対応が手探りの状態
- 一定のコストも要することから採用に着手しにくい

プロジェクトの概要

特定技能制度に基づく外国人ドライバーが、地域公共交通の担い手として活躍できる受入モデルを確立するとともに、プロジェクトを通じて得られた課題やノウハウを整理し、県内バス・タクシー事業者と共有することで、取組の横展開を図ります

モデル受入企業の決定

海外で人材募集・採用

日本へ入国

モデル受入企業で 乗務開始に向けた準備 (運転・接客等の技能取得)

乗務開始

ドライバーとして定着

県が
支援

モデル受入企業(バス・タクシー)がドライバーを目指す外国人材を直接雇用し、**県が人材募集から乗務開始までのプロセスを一貫して支援**します

外国人材に向けた支援



- 日本語能力の向上
- 運転・接客等の技能取得
- 生活面(公的手続き・定期面談等)

モデル受入企業に向けた支援



- 就労環境整備
- 受入・定着に要するコスト
- 特定技能制度に基づく事務手続きなど

横展開

外国人ドライバーの受入・定着に関する課題やノウハウを抽出・分析し、県内バス・タクシー事業者と共有し、モデルの横展開を図ります